

第五期長期計画・調整計画策定委員会 傍聴者アンケート**第13回実施分（平成27年7月3日開催） 自由記載欄****○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。**

- ・地方創生の市の27年度事業については、市議会では僕たちは反対しました。議会でも賛否の議論があったのです。
- ・「都市文化」とすることに賛成です。市の社会資源
- ・プレミアム商品券事業7457万の持つ意義が、国の長期ビジョンと総合戦略の中で正統性があるのかどうか甚だ疑問。一般市民にとっても、各委員から疑問や意見が続出したように、理解を得られやすいとは思にくい。“とりあえず感”が強い。
- ・まち・ひと・しごと創生について、H27年度実施事業に多くの疑問を持ちましたが、委員が質問して下さったので、少しホッとしました。折角もらえる補助金、武蔵野市人口ビジョンに合った使い方をして頂きたい。
- ・マンション住人の地域への関心の低さが怖いです。人口が減らないこと、増やす話はコミュニティの話もセットにしてほしい。
- ・「まち・ひと・しごと創生」国にふりまわされて中身がない話。なんだかなあ…。
- ・「まち・ひと・しごと創生について」調整計画に無理やり組みこむのはどうでしょうか？策定は努力義務なんだから、六長まで見送りじゃダメなのでしょうか。市の様々な個別計画を整合させながら調整計画を策定しなくてはいけないのに、更にややこしいものを放りこんで、大急ぎで粗くまとめるんですか？

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- ・すべてを視野、構成要素として考えていくことが大切だと思います。それは、福祉や子育ても同様です。ともすると「市民」という狭い概念に入りがちです。
- ・「基本的な考え方」「視点」の議論は、もっとシンプルな記述にすることを目指すべきと考えます。全体として極力シンプルにして下さい。
- ・お金は湧いてくるものではないため、1つ1つの事業について、ムダなく、次の世代に負担にならないような責任感を持ってやっていく必要があると再確認しました。国からおりてくるお金、ではその元は？と考えなければならない。自分たちの世代だけに還元するのではなく、次世代に持続可能なものをつくりたい。
- ・一番の力を注ぐべき（お金を使うべき）ことは、将来的な年少人口の減少を防ぐことだと思います。優先順位を明確にするべきだと思います。計画案9ページ、2、多様な～のところ、乳児を持つ世帯だけが子育て支援の対象ではありません。小学生、中高生を持つ世帯も悩み苦しんでいます。遊び場の充実だけでなく、0～18歳の子と親も相談、遊び、育むことができる場が各地域に本当に必要です。市の子育ての講座が多く有難いですがそのような講座に来れない人が沢山います。生活の中で気軽に相談できる場が必要です。それが児童館だと私は思います。
- ・最終的に市民意見がどれだけ反映されたか分かるようにしてください。
- ・多くの人が読める（理解できる）ようにしてください。なんなら別冊で解説してくれてもいいし、現実的ではないけど子ども版とか。問題にぶつからないと関心を持たない長期計画じゃもったいない。
- ・人口の増減が市の将来や財政に係るのは明白なので、桜堤の人口増の原因はしっかり分析すべきではないでしょうか？もう「価格が～」とか「桜堤は特別だから～」とか、想像で話すのはやめて下さい。しっかり分析して計画策定、市政にいかしてください。

（※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。）